活　用　事　例	大田区立東調布第一小学校	鍋谷正尉教諭
活用事例タイトル	思考の読み合いを促すＩＣＴ機器の活用	
対象授業科目/活動	小学校５年　算数　台形の面積	
授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICT の使用局面など)	・　実施日　　平成２４年１２月上旬 ・　対　象　　第５学年１組３９名 ・　ＩＣＴの使用局面 （１）児童の発表での使用 児童が自力解決にて記述したノートを、そのまま発表に使えるように、大型テレビと実物投影機を用意した。 （２）思考の読み合いの環境の整備 （１）で発表した児童の考えをそのまま発表させるのではなく、他の児童にその考えを読み取ってから発表させ、さらに他の児童にその過程を再現させることで、相互の思考の読み合いの場とした。再現の場として電子黒板とデジタルコンテンツを用意した。 （３）紙ベースでの教材とデジタルコンテンツの一致 児童の自力解決では紙ベースでの教材を用意した。また、デジタルコンテンツと同一のデザインで用意することで、すべての児童がスムーズに発表へ取り組めるようにした。	
ICT 活用により期待できる効果 ICT 活用のねらい	この授業では、ＩＣＴ活用により「児童同士の思考の読み合いによる思考の深化」をねらった。児童たちには、発表者のノートから思考を読むことと、読み取ったことを電子黒板上で操作して表現することを通して、発表者の思考を再現することを活動の目的とした。思考の読み合いや電子黒板での表現では、元の発表者からの評価を得ることで、読みの妥当性を確認できるようにし、児童相互の思考のやりとりが活発におこなわれることを期待した。	
評価、振り返り（活動の評判や児童・生徒の声など）	（研究授業として行ったため、事後の協議会から） ・　児童の思考の読み合いがなされていた。 ・　友達の説明に対する反応が多様であった。 ・　児童がＩＣＴ機器に慣れており、ツールとして活用できていた。 （児童から） ・　もっと他の考えを発表したかった。 ・　もっと友達の考えを説明してみたかった。 ・　電子黒板での発表で、友達の考えがよく分かった。 ・　一つの考えを何人もの人が発表するので、面白かった。	

第５学年　算数科学習指導案

日　時　　平成２４年１２月１１日（火）第５校時
13:35～14:20
対　象　　第５学年１組３９名
学校名　　東調布第一小学校
授業者　　教諭　鍋谷　正尉
会　場　　３階　５年１組教室

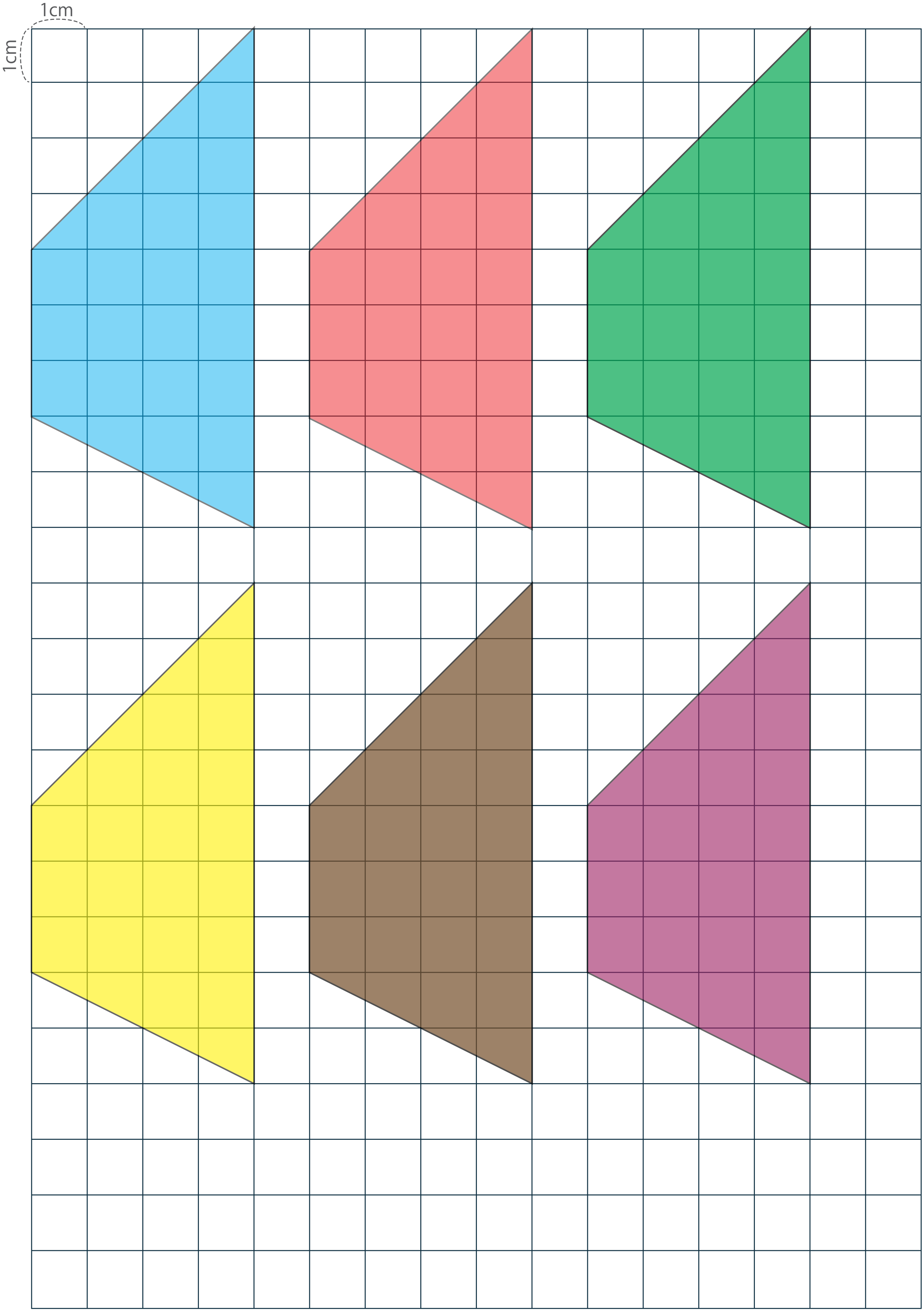
１．単元名　四角形と三角形の面積（東京書籍）

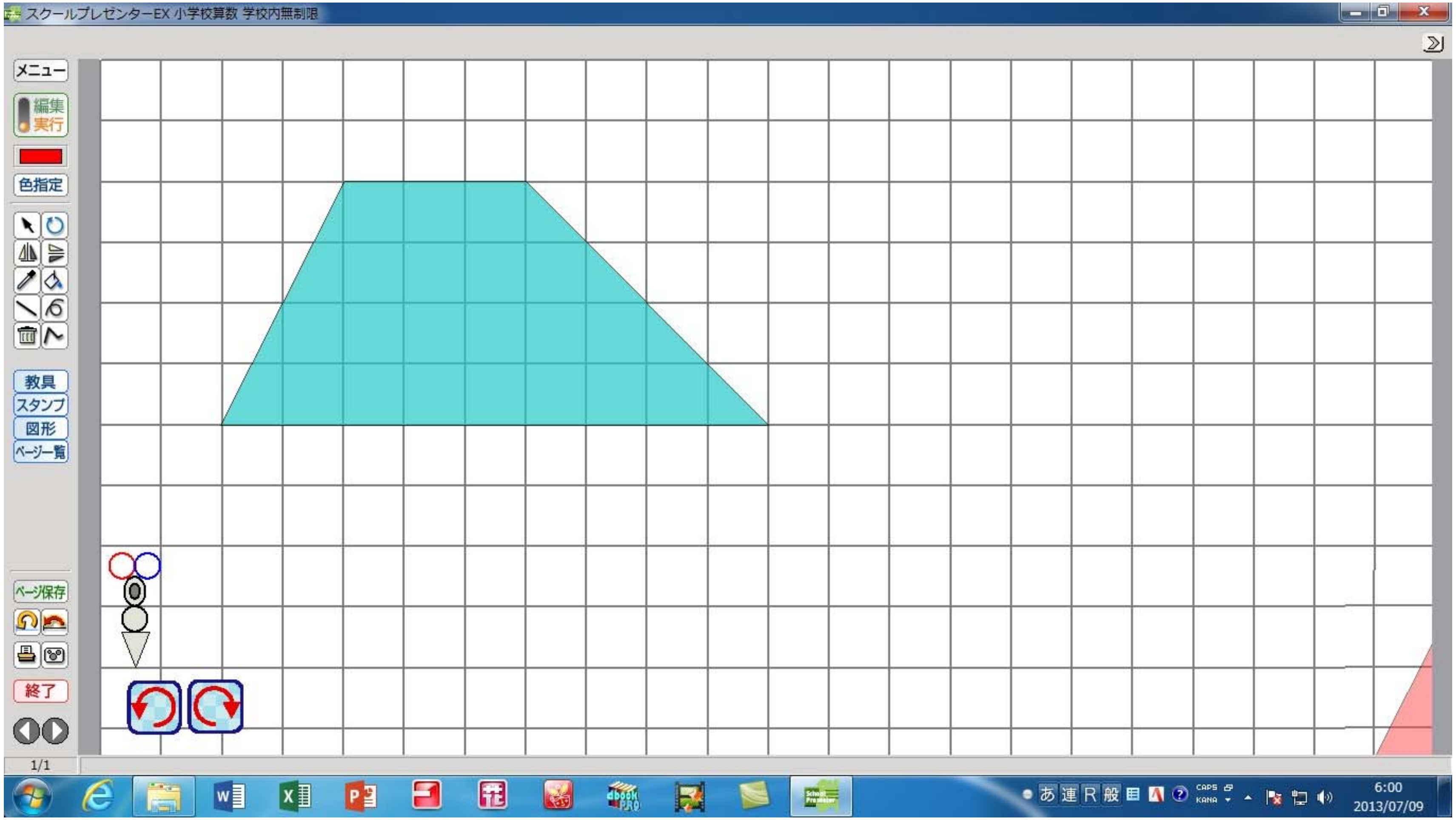
２．本時の目標（全１４時間中の７時間目）
○ 台形の面積の求め方を考え、説明することができる。

３．本時の展開

		主な学習活動	ＩＣＴ機器・ソフト・コンテンツなど
振り返り	３分	**１．　既習事項を復習する。** Ｃ：平行四辺形や三角形の面積の求め方を考えました。 Ｔ：では今日はどんな形でしょうか。	○ 前時までの学習の記録を電子黒板で振り返る。
課題把握	５分	**２．　問題を知り、課題をつかむ。** 。 台形の面積の求め方を考えよう。 ・解決への見通しを持つ。	○ 電子黒板に台形を示し、課題の概要をつかませる。 ※ デジタル教材はスクールプレゼンターで作成した。
自力解決	10分	**３．　自力解決に取り組む。**	○ 電子黒板用に作成したデジタル教材と、同じ方眼紙や台形が印刷されたワークシートを配布し、解決に活用させる。
発表・検討	19分	**４．　発表・検討をする。** 発表の流れ ※以下の(1)～(5)は全て違う児童に発表させる。 (1) ワークシートで考えを発表させる。 (2) 別の児童にどのような操作をしたのかを予想させ、電子黒板上で示させる。 (3) 既習のどの形に変形したのかを発表させる。 (4) 変形を基にした式を発表させる。 (5) 式と図を結び付けて説明させる。 ○ 発表の最後に、考え方の共通点を確認する。	(1) 実物投影機と大型TVで発表 (2) 電子黒板でデジタル教材を操作して発表する。 (4)(5) 電子黒板での操作と書き込みにより発表する。 ○ 電子黒板に記録されたこれまでの発表を振り返る。
まとめ	８分	**５．　まとめをする。** 台形の面積は、三角形や長方形や平行四辺形の形に直して考えると、求めることができます。 **６．　学習感想を書く。**	○ 電子黒板でのデジタル教材への書き込みを振り返る。

＜授業の様子＞


1cm
1cm


スクールプレゼンターEX 小学校算数 学校内無制限
メニュー
編集
実行
色指定
教具
スタンプ
図形
ページ一覧
ページ保存
終了
1/1
6:00
2013/07/09